

大阪・大蔵司遺跡^{だいぞうじ}

- 1 所在地 大阪府高槻市大蔵司・浦堂
- 2 調査期間 一九八〇年（昭五五）六月三日～九月一八日
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会・高槻市教育委員会
- 4 調査担当者 井藤 徹・森田克行
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の時代 弥生時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大蔵司遺跡は、高槻市の西北部にあり、史跡・嶋上郡衙跡の北約1kmに位置している。遺跡は北摂山地の山間から原盆地を経て、奈佐原丘陵の東辺をかすめながら南流する芥川の東側に広がっており、この芥川とその支流である真如寺川が形成した沖積地上に立地している。規模は南北八〇〇m・東西五〇〇mと考えられ、標高は二二m～二八mである。昭和四七年にはじめて発掘調査がおこなわれ、古墳時代の住居址や奈良時代頃の倉跡等を検出している。また、昭和五三年には、弥生時代の住居址・大溝をはじめ、奈良時代の掘立柱建物跡等が調査されている。

今回の発掘調査は、遺跡の東辺部にあたると考えられるところに府立芥川高校が建設されることになり、その事前調査として実施し

たものである。調査はA・B・Cの三地区に分けておこなった。このうち遺構を検出したのはA地区のみで、鎌倉時代の水田址・杭列、平安時代の溝・柵状遺構、奈良時代の溝等が認められた。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器等の土器類と多くの木製品が出土している。木製品の種類としては、平安時代の溝から、木簡(1)・仏像片・下駄が、奈良時代の溝から、木簡(2)・(3)をはじめとして、祭祀具・食膳具・履物・農具などがそれぞれ検出されている。さらにはB地区の自然流路等から、奈良時代のものと考



(京都西南部)

えられる祭祀具・食膳具等が検出されている(別表)。大蔵司遺跡は弥生時代より連綿として営まれた複合遺跡であり、芥川を挟んで嶋上郡衙

